（令和元年６月試験研究業務月報）
試験研究課題名：地球温暖化に対応した京都府丹波黒大豆系品種の生産技術の構築
（平成31年度　地域適応コンソーシアム近畿地域事業）

研　究

丹波黒大豆の青立ち対策技術の確立に向けて

近年、気候変動が顕著となっており、極端な高温や、干ばつから多雨へと大きく振れる年が増えてきています。このような気候の影響で丹波黒大豆栽培では、青立ち※株が多発するようになりました。特に昨年は、記録的な高温の影響により青立ち株が目立ちました。

当センターでは、日本気象協会等と連携して、早播き・早植え栽培や葉取りなどの技術による、青立ち回避を実証する予定です。本年は、5 月 20 日に播種した早播き栽培と摘心や葉取りの技術を組合せた、青立ち回避技術を検討します。

※青立ち：着莢不良などが原因で茎葉の成熟が遅れ、いつまでも青々としている状態を指す。大豆の莢が熟しても茎葉の水分が多く、子実の水分低下がスムーズに進まず、変形粒や未熟粒、カビ粒などの発生につながり、品質低下の原因となる。

早播き区（5 月 20 日播種・左）と標準区（6 月 3 日播種・右）の比較：6 月 25 日撮影
（早播き区は生育が進み、土寄せを実施）

農 林 セ ン タ ー